

特産のブリで元気づけたい

〜金沢市の2次避難所で炊き出し〜

2月5日、能登半島地震の被災者への緊急支援物資として町特産のブリ加工品やジャガイモなどを町と東町漁協が金沢市へ輸送しました。

7、8日は、町や漁協の職員ら12人が市内の体育館などの2次避難所4カ所、5施設を巡ってブリのあら煮やアオサ入りうどん、ふかしジャガイモなどを炊き出し、被災者を元気づけました。



「温かい食事をどうぞ」と終始声をかけ、配膳する川添町長



支援物資の積み込み

炊き出しは、平成7年に発生した阪神淡路大震災での経験を生かし、町と縁のある金沢市へ支援ができるのではと考案。昨年の7月には、村山卓金沢市長が「途切れることのないブリなどの出荷要望」のために長島町を訪れたことをきっかけに、川添健町長自らトップセールスを行う町の物産展（金沢美味フェア）を2月に金沢市で開催予定でしたが、中止し今回の支援活動を行いました。

川添町長は「長島町の鰯王を食べていただいている石川県の皆さんに恩返しのため決断実行に至り、地域の人々に喜んでもらえてよかった。被災地と被災者のため、石川県の復興に、これまで以上に長島の農水産物を通して協力を続けていきたい」と話しました。



出発式の様子



目録を受け取る村山市長（写真右）



被災地の様子



・心を込めて調理する職員と炊き出しのメニュー